

# 第 29 回 東北森林科学会大会

2024 年度(令和 6 年度)

## プログラム

と き : 2024 年 11 月 16 日 (土) ~17 日 (日)

ところ : 秋田大学 手形キャンパス

(〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1 番 1 号)

主 催 東北森林科学会  
共 催 一般社団法人 日本森林学会  
一般社団法人 日本森林技術協会  
後 援 秋田県

第 29 回東北森林科学会大会運営委員会

〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町 1-23

山形大学農学部食料生命環境学科内

E-mail : 24kikaku@tsfs.jp

## 大会に参加される皆様へ

### 受付

日時 11月16日(土) 午前9時30分より

場所 秋田大学 教育文化学部3号館ピロティ

事前に参加費、懇親会費をお振り込み頂いていない方は、受付時にお支払いください。なお、今回の大会では要旨集はPDFのみでの発行となります。プログラムについては、簡易印刷したものを当日配布します。

大会参加費(当日)	2,000円(一般), 500円(学生会員)
-----------	------------------------

### 総会

日時 11月16日(土) 16:00-17:00

場所 教育文化学部60周年記念ホール

### 懇親会

日時 11月16日(土) 18:00-20:00

場所 ANAクラウンプラザホテル秋田 「12階空桜(そら)」

### 編集委員会

日時 11月16日(土) 10:00-11:00

場所 教育文化学部3号館2階254教室

### 理事会

日時 11月16日(土) 11:00-12:30

場所 教育文化学部3号館2階254教室

### 昼食、宿泊等について

昼食及び宿泊につきましては、各自でご対応いただきますようお願い致します。構内に学会参加者用の駐車スペースを確保していませんので公共交通機関をご利用ください。また、クローク等は準備しておりませんので手荷物は各自で管理をお願いします。

### 学生優秀発表賞

学生優秀発表賞(学生ポスター賞)は、学生が発表する11月16日のポスターセッションより選考し、同日の総会にて受賞者が発表されます。

### 新型コロナウイルス対策

発熱や体調不良の場合は来場をご遠慮いただくようお願いいたします。

# 大会日程

	11月16日(土)		11月17日(日)	
9:30	受付		ポスター準備	
10:00	ポスター準備	編集委員会		口頭発表
10:30				
11:00			ポスターセッション2日目	
11:30		理事会		
12:00	ポスターセッション1日目			
12:30				
13:00				
13:30			ポスター回収	
14:00				
14:30		テーマ別セッション		
15:00	ポスター回収及び準備			
15:30				
16:00	東北森林科学会総会			
16:30				
17:00				
17:30				
18:00				
18:30				
19:00	懇親会			
19:30				

## テーマ別セッション

■ 11月16日(土) 13:30-16:00 教育文化学部60周年記念ホール

### 東北地方におけるブナ林研究の歩みと展望

コーディネーター：和田 覚（秋田県林業研究研修センター）

大貫靖浩（森林総合研究所）

日本のブナ林は第三紀周北極植物群が起源とされ、東アジアの中でも独自性の高い森林である。北海道渡島半島を北限に日本海側多雪地に多く分布し、東北地方はブナ帯とも呼ばれる植生帯の中心にある。生活や文化、産業と密接し、近世以降では、薪炭など生活資材の採取、鋳業や林業、林間放牧、針葉樹人工林への転換、スキー場開発など、規模やインパクトの異なる様々な人為の影響を受け続け、資源の減少と劣化、二次林化に及んだ。1980年代以降は、自然保護運動の高まりと、それに起因する白神山地の世界自然遺産登録を契機に、ブナ林保護の動きが加速した。近年は、資源回復の兆しとともに、温暖化影響、ブナ林衰退、野生動物との軋轢など新たな課題が生じつつある。こうした時代背景とともに、ブナ林とその周辺を扱う研究のテーマは、利用、更新、二次林育成、水源涵養機能、不成績造林地、生物多様性、マस्टィング、長期動態、ブナ林再生など、多岐に変化し続けてきた。本セッションでは、東北地方で取り組まれてきたブナ林に関する研究を振り返りつつ、現在、様々なテーマで研究に携わっている方々から話題提供をいただく予定である。こうした話題やこれまでの研究の歴史を踏まえ、明らかになったこと、検証すべきこと、今後取り組むべきことなど、現状と課題について議論し、知見や情報を共有することで、ブナ林の保全に資する今後の研究の発展につなげていきたい。

#### ●趣旨説明・イントロダクション（13:30-13:40）

##### 東北地方におけるブナ林研究

～日本林学会東北支部会誌及び東北森林科学会講演要旨集から～

和田覚（秋田県林業研究研修センター）

#### ●話題提供（13:45-15:30）

##### 1 秋田県におけるブナの結実豊凶とクマの出没動向

和田覚・新田響平（秋田県林業研究研修センター）

##### 2 奥羽山系のブナ帯落葉広葉樹老齢林における地上部現存量の26年間の変化

野口麻穂子（森林総合研究所東北支所）・星崎和彦（秋田県立大）・

松下通也（森林総合研究所林木育種センター）・杉浦大樹（秋田県立大）・

八木橋勉（森林総合研究所）・齋藤智之（森林総合研究所東北支所）・

板橋朋洋・太田和秀（秋田県立大）・

柴田銃江・星野大介・正木隆（森林総合研究所）・

大住克博（元森林総合研究所）・高橋和規（森林総合研究所関西支所）・

鈴木和次郎（元森林総合研究所）

##### 3 ブナ林における微地形および樹種組成による土壌厚の推定

新田響平（秋田県林業研究研修センター）・大貫靖浩（森林総合研究所）

##### 4 東北地方ブナ林における温室効果ガス動態

森下智陽（森林総合研究所東北支所）・安田幸生（森林総合研究所）・

新田響平（秋田県林業研究研修センター）・阪田匡司（森林総合研究所）・

小野賢二（森林総合研究所東北支所）

5 北東北におけるブナ林土壌の保水機能の定量的評価

大貫靖浩（森林総合研究所）

6 ササが枯れるとブナは本当に更新できるのか

～エピソードイベントが森林動態に与える影響～

蒔田明史（秋田県立大）

7 森吉山麓高原自然再生事業におけるブナ林再生の現状

沼宮内信之・菅原悠樹・和田覚（秋田県林業研究研修センター）

●総合討論（15:40～16:00）

## ポスターセッション

セッション開始時刻までに、ご自分の番号(下記参照)のパネルにポスターを貼ってください。今年度は1日のみの発表になりますので、両日ともに貼っておくことはできません。パネルは「幅120cm, 高さ180cm(縦長)」です。コアタイムには発表者はポスター前に立って説明し、質疑を受けて下さい。

### ポスターセッション1日目(発表番号1~18)

11月16日(土) 11:00-13:30 教育文化学部3号館1階146・150教室

10:00-11:00 ポスター準備

12:30-13:30 コアタイム

14:30-16:00 ポスター回収・準備

※2日目は別の発表者がポスターを貼りますので当日中にはがしてください

### ポスターセッション2日目(発表番号19~35)

11月17日(日) 10:30-13:00 教育文化学部3号館1階146・150教室

9:30-10:30 ポスター準備

12:00-13:00 コアタイム

13:00-14:00 ポスター回収

### ポスターセッション1日目

- 1\*  $\alpha$ -Pinene のマツノマダラカミキリに対する生物活性  
原英梨佳・斉藤正一・芦谷竜矢(山形大)
- 2\* ウルシ林の地位指数に影響を及ぼす立地環境の評価  
真坂一彦・会田裕雅・江縁紗耶(岩手大)
- 3\* ウルシ林の動態予測に基づく経営形態別の収益性評価  
会田裕雅・真坂一彦(岩手大)
- 4\* 岩手県沿岸の造成地に植栽されたヤブツバキの生育不良要因  
相川ゆきえ(岩手大)
- 5\* 山形県鶴岡市における原木栽培シイタケに誘引される生物  
島津桃子・斉藤正一・芦谷竜矢(山形大)
- 6\* 岩手県におけるカラマツ林とスギ林、広葉樹林で観察される鳥類相の違い  
大泉龍太郎(岩手大)
- 7\* 多雪地広葉樹の展葉遅延はどのようにして起こるのか : 開芽に至る冬芽吸水プロセスに着目して  
庄司森(岩手大)・吉村謙一(山形大)
- 8\* 多雪地樹木の樹形の違いが雪圧による幹たわみに与える影響  
横山大輝(岩手大)・吉村謙一(山形大)
- 9\* 2024年における秋田県内5箇所(箇所)のブナの堅果生産数の比較  
関本翔太(秋田県立大)・和田覚・新田響平・菅原悠樹・沼宮内信之・大塚香(秋田県林業研究研修センター)・木村恵(秋田県立大)

- 10 鶴岡市のスギ林内におけるオバクロモジの資源量Ⅲ～スギ林内のオオバクロモジのぼう芽更新状況～  
齊藤正一(山形大)・佐々木瑠偉(岩手大)・芦谷竜矢・相蘇春菜(山形大学)
- 11 アカマツ林皆伐後の天然更新に与える林床植生の影響  
菅原大輔(岩手大)
- 12 カラマツ精英樹における材質形質及び材質試験データを用いたゲノムワイド関連解析とゲノミック予測  
三嶋賢太郎(森林総合研究所林木育種センター東北育種場)・  
平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大)・  
井城泰一(森林総合研究所林木育種センター東北育種場)・  
平尾知士(森林総合研究所林木育種センター)・  
高島有哉(森林総合研究所林木育種センター関西育種場)・  
永野聡一郎(森林総合研究所林木育種センター)・  
福田陽子(森林総合研究所林木育種センター北海道育種場)・  
平川英樹(かずさDNA研究所)・  
田村明・高橋誠(森林総合研究所林木育種センター)
- 13 おが粉とチップの混合割合がシイタケの収量に与える影響  
村田政穂・菅原冬樹(秋田県林業研究研修センター)
- 14 アラゲキクラゲへの紫外線照射方法と保管方法によるビタミンD含量の変化  
小野寺杏仁・土屋慧(青森県産業技術センター林業研究所)
- 15 岩手県で捕獲したオオマルクビヒラタカミキリから分離された寄生性線虫について  
小澤壮太・鳥居正人・綾部慈子・中村克典(森林総合研究所東北支所)
- 16 秋田県におけるニホンジカのカメラ撮影頻度と性別割合  
菅原悠樹(秋田県林業研究研修センター)・長岐昭彦(秋田県自然保護課)
- 17 震災後、生育基盤盛土に植栽された海岸防災林マツの生育状況  
齋藤直彦(福島県林業研究センター)・福山文子(福島県会津農林事務所)
- 18 広葉樹原木市場の比較調査結果について  
新野雄大(山形県森林研究研修センター)

## ポスターセッション2日目

- 19 花粉の少ないスギ11系統の直挿し育苗の適性評価  
丹羽花恵(岩手県林業技術センター)・吉田正平(岩手県山林種苗協同組合)
- 20 岩手県北地域におけるマツ材線虫病の媒介昆虫  
小岩俊行(岩手県林業技術センター)
- 21 東北地方におけるユリノキの遺伝的多様性の評価  
那須仁弥・矢野慶介(国研森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター東北育種場)・  
武津英太郎(国研森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部)・  
谷口亨(国研森林研究・整備機構森林総合研究所森林バイオ研究センター)

- 22 育苗環境の違いがスギコンテナ苗の成長に及ぼす影響  
千葉信隆・佐藤博文（秋田県林業研究研修センター）
- 23 山形県におけるクロマツ海岸林の広葉樹林化一要因解析によるゾーニング指標の検討一  
千葉 翔・大友健慎（山形県森林研究研修センター）
- 24 凍結処理後のハタケシメジ担子胞子による交配育種  
玉田克志・目黒渚（宮城県林業技術総合センター）
- 25 スギ単木防除区域における保護資材の相違による成長差  
更級 彰史・千葉 利幸・山崎 修宜（宮城県林業技術総合センター）・  
粕谷 玲子（宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所）
- 26 宮城県におけるスギ特定母樹採種園の母樹系統別の採種量の比較  
山崎修宜（宮城県林業技術総合センター）
- 27 モウソウチクの放射性物質汚染状況及び除染効果調査  
今埜実希（宮城県林業技術総合センター）・齋藤智之（森林総合研究所東北支所）・  
渡邊広大・目黒渚・玉田克志（宮城県林業技術総合センター）
- 28 コナラ萌芽枝の放射性物質濃度測定結果に関する報告(3)  
目黒渚・玉田克志（宮城県林業技術総合センター）
- 29 ニホンジカ生息域における下層植生衰退度の評価  
佐藤匠・田中一登（宮城県林業技術総合センター）・名取史晃（宮城県大河原地方振興事務所）
- 30 静岡県内の樹木園に植栽された広葉樹における管孔性と動的ヤング率との関係  
坂口昌幸（山形大）
- 31 UAV によるマツ枯れ激害地の時系列観測  
村川直美子（山形県森林研究研修センター）
- 32 「二度掻き」による漆増産効果の検討  
中軽米聖花（岩手県林業技術センター）
- 33 宮城県のスギ花粉症対策の取組み  
千葉利幸（宮城県林業技術総合センター）
- 34 2024 温暖少雪年のスギ人工林小流域からの流出特性  
田村浩喜・加茂谷雄樹（秋田県林セ）・野口正二（国際農研）・阿部俊夫（森林総研）・  
飯田真一（森林総研北海道）
- 35 山形県におけるスギ造林地の下刈り終了適期の検討  
藤城彰人・大友健慎（山形県森林研究研修センター）
- 36 庄内空港クロマツ防風林帯に植栽されたタブノキ 25 年の成長実態  
渡邊潔・大友健慎（山形県森林研究研修センター）

\* 学生優秀発表賞（学生ポスター賞）の審査対象ポスター

原則、申し込みフォームでご連絡いただいた通り記載しておりますが、発表タイトルや所属を未入力の方は事務局の判断で記載させていただきます。



## 口頭発表

11月17日(日) 10:00-11:45 60周年記念ホール

口頭発表は1題15分(発表12分、質疑応答3分)厳守でお願いします。発表者は、次の発表の座長を務めて下さい。配付資料のある発表者は御自身で必要枚数をご準備下さい。USBフラッシュメモリ等に保存したPowerPoint用ファイルを、当日口頭発表開始前までに会場のパソコンにコピーしてください。なお、会場のパソコンはWindows 10、Power Pointのバージョンは「2019」の予定です。円滑な進行のため、パソコンの持ち込みはお断りいたします。

- 10:00-10:15 1 山形県小国町におけるナラ枯れ発生跡地の林分構造の変化  
酒井敦・澤田佳美・齋藤智之(森林総研東北)・斉藤正一(山形大)
- 10:15-10:30 2 ネマガリダケ保存温度の違いによる収穫後変化  
古澤優佳(東北農林専門職大)・中村人史(山形県森林研究研修センター)
- 10:30-10:45 3 植栽密度の異なる23年生スギ林の林分構造と成長  
加茂谷雄樹(秋田県林業研究研修センター)・  
和田覚(秋田県林業研究研修センター)
- 10:45-11:00 4 15年間凍結保存したヤマブシタケ菌株の子実体形成能力  
古川成治(公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会きのこ振興センター)・  
小川潤(福島県林業研究センター)
- 11:00-11:15 5 ワラビ粉生産のための栽培管理技術  
中村人史(山形県森林研究研修センター)・  
古澤優佳(東北農林専門職大学)
- 11:15-11:30 6 里山の利活用による生物多様性保全状況の調査 ―自然共生サイトへの応募を通じて―  
伊藤良太(健康の森プロジェクト)
- 11:30-11:45 7 東北地方における主伐地分布と所有形態との関わり  
松浦俊也(森林総合研究所東北支所)

## 会場等の案内

会場へのアクセスは、公共交通機関等をご利用ください。宿泊については各自ご対応ください。

# 手形地区施設配置図 Tegata Campus Map

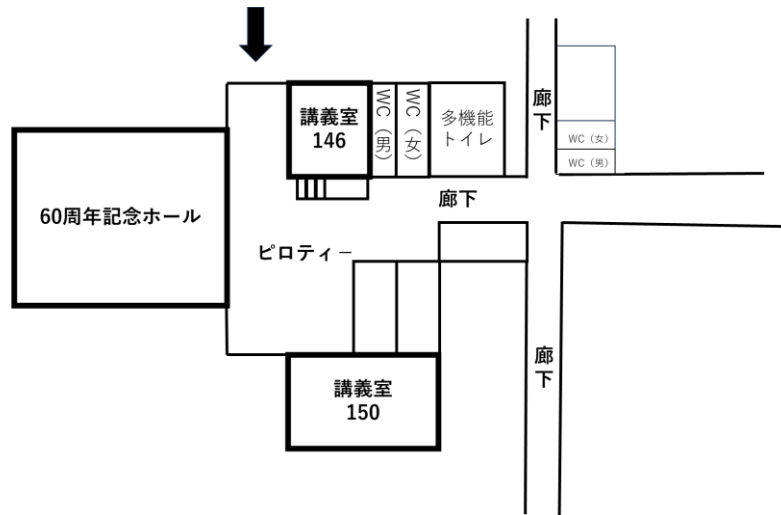


### 【秋田大学手形キャンパス教育文化学部3号館】

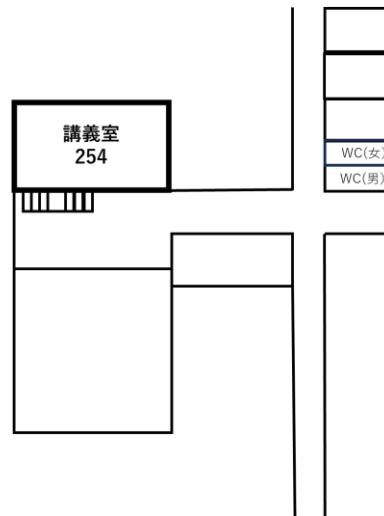
徒歩：JR 秋田駅東口から 15 分

バス：JR 秋田駅西口 12 番乗り場 手形山大学病院線 秋田大学前下車

# 1階



# 2階



大会に関する問い合わせ先

〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町 1-23 山形大学農学部食料生命環境学科内  
第 29 回東北森林科学会大会運営委員会

事務局: 吉村 謙一

E-mail: 24kikaku@tsfs.jp

第 29 回東北森林科学会大会運営委員会

芦谷竜矢 (山形大学農学部: 委員長), 澤田智志 (秋田県林業研究研修センター),  
林雅秀 (山形大学農学部), 吉村謙一 (山形大学農学部: 事務局)